

「中小企業」分野、取り纏め案

主査 田中正知
副査 上野保

1. 「中小企業」分野に関する各省庁からの説明

1-1. 経済産業省関連

- 1-1-1. モノ作り基盤技術の高度化支援
 - (1) 戦略的基盤技術高度化支援事業
 - (2) 川上・川下ネットワーク構築支援事業
 - (3) 中小企業基盤技術継承支援事業
 - (4) 中小企業の計量標準供給基盤強化事業
- 1-1-2. 中小企業ものづくり人材育成支援
 - (1) 高専等活用中小企業人材育成事業
 - (2) 工業高校等実践教育導入事業
- 1-1-3. 技術開発・事業化支援
 - (1) SBIR 段階的競争選抜技術革新支援事業
 - (2) 中小企業・ベンチャー挑戦支援活動
- 1-1-4. 中小企業のIT化支援
 - (1) 中小企業IT経営革新支援事業
 - (2) 戦略的CIO育成支援事業

1-2. 厚生労働省関連

- 1-2-1. 中小企業労働力確保法に基づく中小企業者への支援
- 1-2-2. 職業訓練の実態説明

コメント；人財育成事業と『ジョブカード制度』を連動させ充実させて欲しい。

2. 中小企業の実態説明

副査の上野委員から、トップランナーの中小企業社長の立場で見た「中小企業の実態と課題」の説明を受けた。その中での主な課題は以下の通りであった。

2-1. ものづくりを巡るパラダイムの変化

○ 産業のグローバル化

- ・ 中国の台頭で、国内では量産品の加工は困難に。
- ・ 発注側の急激な減産や、在庫減らしで受注が大幅減少。
- ・ 高付加価値製品とその加工技術が求められる。
- ・ 中小企業のトップ企業や健全企業は、イノベーションへのチャレンジが旺盛であり、なおかつ国や自治体の中小企業支援策を利活用している。
- ・ 大企業や中堅企業では、リストラの進行等で人手不足・ファブレス化で最適加工法など生産技術（ものづくりのシンクタンク）の機能を、中小企業に求める様になってきた。
- ・ ITによるビジネスインフラの構築が海外よりも遅れている。
- ・ 産学連携や地域の活性化は、中小企業が推進の主役になって来つつある。

2-2. 基本的な考え方

○ イノベーションの推進必要

- ・ 中小企業は、規模は小さくてもイノベティブでないと生き残れない。

- ・ それを支える人材と技術が重要
- ・ 知的財産への取り組み（「知財経営」） ノウハウの蓄積、特許取得
- ・ ITの利活用とEDIシステムの導入促進
- ・ 「わがみがき」 中小ものづくり技術の高度化充実へ
- ・ 「ひとづくり」 中小ものづくり人材の育成と確保
- ・ 「ことおこし」 中小企業の持つ技術の事業化

2-3. 「わがみがき」、「ひとづくり」、「ことおこし」への取り組み

- 「わがみがき」
 - ・ 中小ものづくり高度化法等による基盤技術の高度化強化と促進が必要
 - ・ 事業化を見据えた研究開発の推進
 - ・ 産学官連携を強化する
- 「ひとづくり」
 - ・ ものづくり技術を担う若手の育成（産業界と教育機関との密接な連携）
 - ・ 地域や中小企業のニーズに基づいた技術者の研修
 - ・ 中小企業は経営者の経営力を強化する必要がある。
- 「ことおこし」
 - ・ 中小企業同士による、企業間の連携、川上と川下産業のマッチングの場の拡大必要（海外市場を含む）
 - ・ 中小企業の技術を事業化する為の、ハンズオン支援重要（海外市場を含む）
 - ・ 知的財産やノウハウへの戦略的取り組み（「知財経営」）
 - ・ 受発注システムのプラットフォーム作り促進
 - ・ 農工商連携の推進

2-4. 眼下の問題

金融問題が実体経済に重大な影響を出しており、緊急の経済対策が打ち出されている。「ものづくり分野中間フォロー」として、緊急的な対策を折り込む必要があると考えられる。そして、中・長期的な視点も併せてまとめる必要があるのではないかと思われる。